

証券コード:4768

大塚商会だより

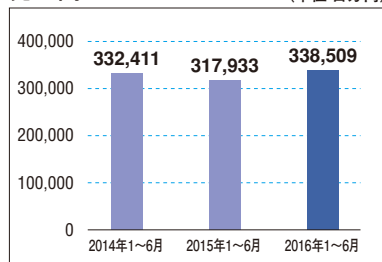
2016年12月期第2四半期 株主通信

2016年1月1日～2016年6月30日

連結

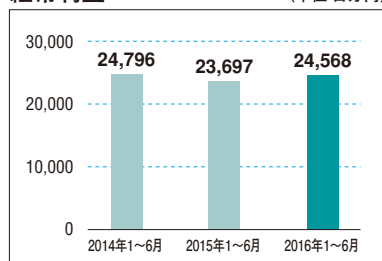
売上高

(単位:百万円)



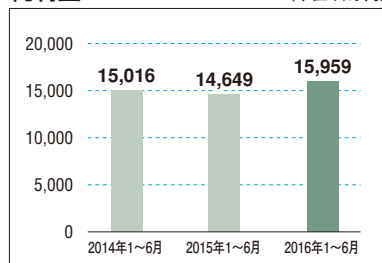
経常利益

(単位:百万円)



純利益※

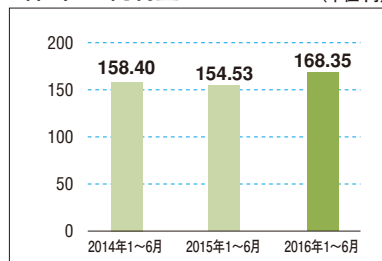
(単位:百万円)



※親会社株主に帰属する純利益

1株当たり純利益

(単位:円)



(注)2014年7月1日付けで、1株につき3株の割合で株式分割を行っております。そのため、2014年の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純利益を算定しています。

ミッションステートメント

使命

大塚商会は多くの企業に、情報・通信技術の革新によってもたらされる新しい事業機会や経営改善の手段を具体的な形で提供し、企業活動全般にわたってサポートします。そして、各企業の成長を支援し、わが国のさらなる発展と心豊かな社会の創造に貢献しつづけます。

目標

- 社会から信頼され、支持される企業グループとなる。
- 従業員の成長や自己実現を支援する企業グループとなる。
- 自然や社会とやさしく共存共栄する先進的な企業グループとなる。
- 常に時代にマッチしたビジネスモデルを創出しつづける企業グループとなる。

行動指針

- 常にお客様の目線で考え、お互いに協力して行動する。
- 先達のチャレンジ精神を継承し、自ら考え、進んで行動する。
- 法を遵守し、社会のルールに則して行動する。



大塚商会

目次

● 株主の皆様へ	1	● 大塚商会IRサイトのご案内	9
● 事業の概況	2	● 連結財務諸表(要旨)	10
● 通期の見通し	6	● 会社の概要・役員	12
● トピックス	8	● 株式の状況	13

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

本「大塚商会だより」に記載しております業績見通しなど将来についての事項は、予測しえない経済状況の変化などさまざまな要因があるため、その結果について、当社グループが保証するものではありません。

株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご愛顧とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに、当社グループの2016年第2四半期連結累計期間(2016年1月1日から2016年6月30日まで)の事業概況をご報告申し上げます。

当期間につきましては、国内経済は緩やかな景気回復基調となり、企業のIT投資は、慎重ながらも底堅く推移しました。当社グループでは、お客様の生産性向上やコスト削減、節電につながるソリューション提案を行いました。

この結果、売上高は、3,385億9百万円(前年同期比6.5%増)となりました。利益につきましては、営業利益239億44百万円(前年同期比3.3%増)、経常利益245億68百万円(前年同期比3.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益159億59百万円(前年同期比8.9%増)となりました。

通期につきましては、企業のIT投資は引き続き底堅く推移すると予想されます。このような環境下において、お客様との接点をさらに強化し、お客様のIT活用ニーズ、節電ニーズに応えてまいります。2016年2月1日に発表した通期の業績予想に変更はありません。

当社グループでは今後も「ミッションステートメント」の具現化に努め、皆様の信頼に応えられるよう経営改革を進めてまいります。

株主の皆様にはより一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2016年9月

代表取締役社長 大塚 裕司

事業の概況

■国内景気は緩やかな回復基調で推移、 足下では弱さも

当第2四半期連結累計期間(2016年1月1日~2016年6月30日)におけるわが国経済は、緩やかな景気回復基調で推移しましたが、足下では消費マインドに足踏みが見られるなど弱さも見られました。また世界経済や為替相場の先行き不透明感から、企業の業況判断にも慎重さが見られました。

このような経済状況にあって国内企業のIT投資は、堅調な企業業績を背景に慎重ながらも底堅く推移しました。当連結累計期間は、マイナンバー制度の運用開始と個人情報保護法の改正があり、またサイバー攻撃の脅威なども続いており、セキュリティ対策への関心がさらに高まりました。

■攻めのIT投資、コスト削減を提案

以上のような環境において当社グループは、「ソリューションでオフィスを元気にし、お客様の信頼に応える」を2016年度のスローガンに掲げ、小規模から中規模のお客様にシステムを安心して使っていただけるようにセキュリティ関連のサービスを強化するなど、積極的に企業のIT需要の掘り起こしに努めました。また、当社の取り扱う商材やサービスの組合せにより生産性向上・コスト削減・節電対策に繋がるソリューションを具体的に提案し、攻めのIT投資やコスト削減の必要性を喚起しました。

堅調な国内企業業績
IT投資は底堅く推移

企業のIT需要を掘り起こし
生産性向上、コスト削減、節電

■増収増益を確保

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、3,385億9百万円（前年同期比6.5%増）となりました。利益につきましては、営業利益239億44百万円（前年同期比3.3%増）、経常利益245億68百万円（前年同期比3.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益159億59百万円（前年同期比8.9%増）となりました。

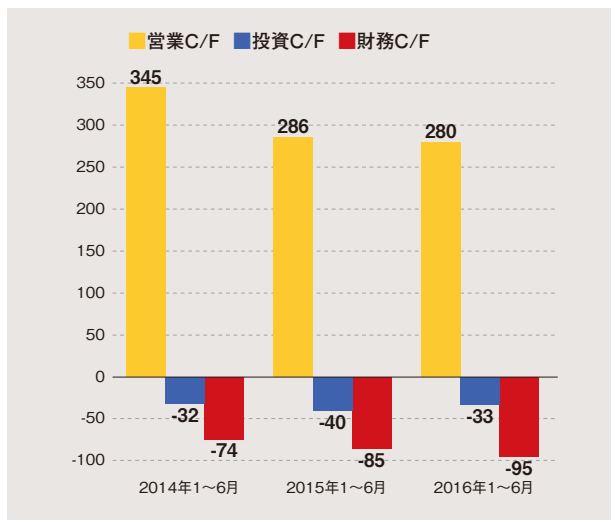
（単位：百万円）

	2015年1～6月	2016年1～6月	
	金額	金額	増減率
売上高	317,933	338,509	+6.5%
営業利益	23,173	23,944	+3.3%
経常利益	23,697	24,568	+3.7%
純利益*	14,649	15,959	+8.9%

※親会社株主に帰属する純利益

■キャッシュ・フローの状況

（単位：億円）



営業活動によるキャッシュ・フローは、「仕入債務の増加額」が小さくなったことなどにより、前年同期に比べ6億48百万円減少し、280億円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、「ソフトウェアの取得による支出」が減少したことなどにより、前年同期に比べ6億71百万円減少し、33億46百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、「配当金の支払額」が増加したことなどにより、前年同期に比べ9億45百万円増加し、95億33百万円となりました。

四半期別の概況

■売上高の推移

売上高は、第1四半期(1～3月)、第2四半期(4～6月)とも増収となり、前年第2四半期からの増収トレンドを継続しました。

第1四半期(1～3月)売上高は、1,711億30百万円(前年同期比7.4%増)、第2四半期(4～6月)売上高は、1,673億79百万円(前年同期比5.6%増)となりました。

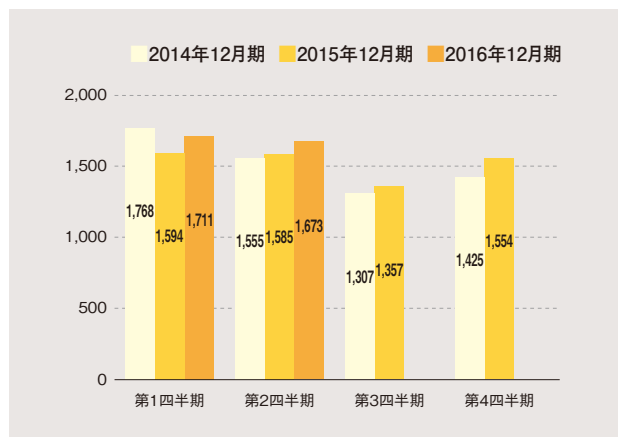
■経常利益の推移

経常利益は、第1四半期(1～3月)は順調に伸びましたが、第2四半期(4～6月)は微増益となりました。

第1四半期(1～3月)経常利益は、103億60百万円(前年同期比9.0%増)、第2四半期(4～6月)経常利益は、142億7百万円(前年同期比0.1%増)となりました。

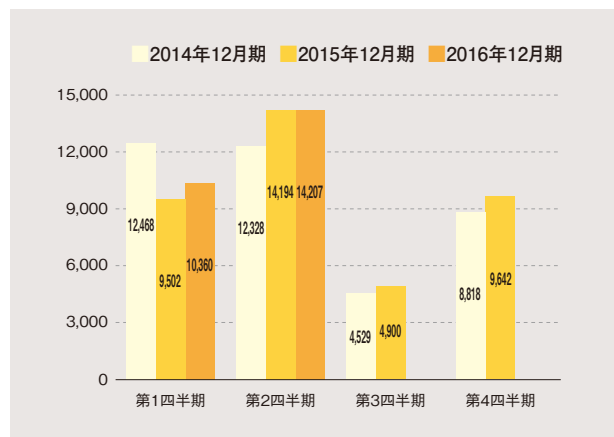
売上高の四半期推移

(単位：億円)



経常利益の四半期推移

(単位：百万円)



事業セグメント別の概況

■システムインテグレーション事業

コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、セキュリティ対策やモバイル端末の需要を喚起するソリューションに力を入れ、複写機・パソコン・タブレット・セキュリティ関連機器等の販売台数を伸ばし、売上高は2,039億19百万円(前年同期比6.9%増)となりました。

■サービス&サポート事業

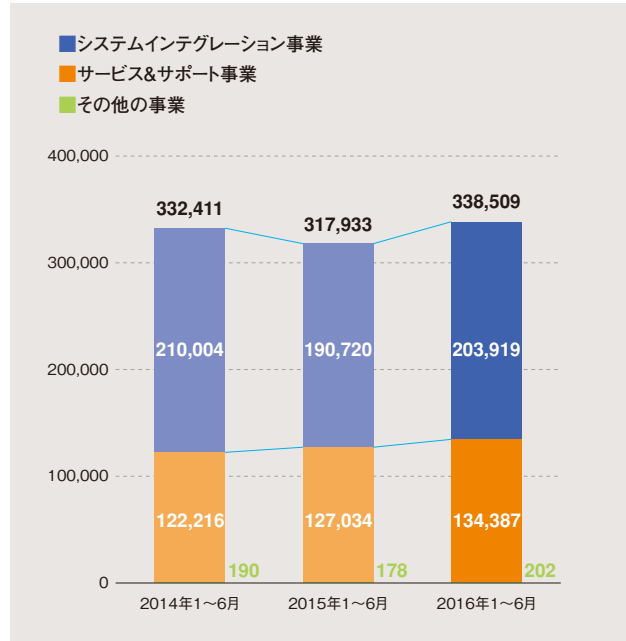
サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンプランニング、アウトソーシングサービス等により導入システムや企業活動をトータルにサポートするサービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」が順調に推移し、保守等も堅調だったため、売上高は1,343億87百万円(前年同期比5.8%増)となりました。

■その他の事業

その他の事業では、売上高は2億2百万円(前年同期比13.5%増)となりました。

事業セグメント別の売上高推移

(単位：百万円)



通期の見通し

■企業のIT投資は底堅く推移すると予想

今後、国内景気は引き続き緩やかながらも回復していくことが期待されます。しかし英国のEU離脱問題の影響や中国景気の動向、地政学的リスクなど懸念材料もあり、一部に慎重な動きも予想されます。

このような経済環境のもとで、国内企業は引き続き競争力強化のための攻めのIT投資が必要とされており、企業のIT投資は今後も底堅く推移するものと予想されます。

■総合力でソリューション提案

以上のような経済状況や企業のIT投資動向に対する見通しを前提として、引き続き数多くの取扱い商材やサービスを活かし、お客様のシステム環境の整備・充実を通して国内企業の生産性向上や収益力向上をサポートしていきます。そのためにお客様との接点をさらに強化し、総合力でソリューション提案を行います。そして魅力あるオフィスサプライ商品の品揃え、企業活動の負荷軽減を支援する保守サービスメニューの開発など、ストックビジネスを強化し、お客様と安定的かつ長期的な取引関係を構築し収益基盤の充実を図ります。また、人材育成と仕組みの両面から営業力やサポート力の底上げに努め、いっそうの生産性向上を図っていきます。

2016年下期の方針と施策

『ソリューションでオフィスを元気にし、
お客様の信頼に応える』

- 生産性向上、省力化に向けたソリューション提案
- 景況感の鈍化を踏まえた、コスト削減提案
- お客様との取引品目を拡大、クロスセル
- タブレットを中心とした、クライアント活用提案
- 光回線、ネットワークソリューション提案の強化
- お客様のマイナンバー対応を支援

■セグメント別の施策

システムインテグレーション事業では、企業のIT投資動向やIT活用ニーズを見極めながら、複写機・コンピューター・タブレット等のモバイル端末・電話機・光回線・Wi-Fi環境・セキュリティ関連機器等を組み合わせた複合システム提案や総合提案をさらに推進し、ソリューション提案の強化を図ります。

サービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」において、お客様のニーズに合わせた品揃え、商材の拡充、プライベートブランド商品「TANOSEE」の充実等を図るとともに、お客様との接点をさらに強化し販売に繋がります。また、サポート事業「たよれーる」において、運用代行型のサービスやセキュリティ関連サービスの開発を行い、ハードウェアに依存しない新しいサービスを強化します。



<http://www.tanomail.com/>

■通期の業績予想

通期の連結業績予想は以下のとおりです。

売上高6,390億円(前年同期比4.9%増)、営業利益400億円(前年同期比7.2%増)、経常利益405億円(前年同期比5.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益251億80百万円(前年同期比6.2%増)。

セグメント別の売上高では、システムインテグレーション事業3,708億80百万円(前年同期比5.0%増)、サービス&サポート事業2,677億40百万円(前年同期比4.8%増)、その他の事業3億80百万円(前年同期比1.5%減)。

2016年2月1日に発表した連結業績予想に変更はありません。

売上高・利益計画

(単位：百万円)

	2015年 12月期	2016年12月期 (計画)	
	金額	金額	増減率
売上高	609,045	639,000	+4.9%
営業利益	37,311	40,000	+7.2%
経常利益	38,240	40,500	+5.9%
純利益*	23,705	25,180	+6.2%

※親会社株主に帰属する当期純利益

セグメント別売上高計画

(単位：百万円)

	2015年 12月期	2016年12月期 (計画)	
	金額	金額	増減率
システムインテグレーション事業	353,170	370,880	+5.0%
サービス&サポート事業	255,490	267,740	+4.8%
その他の事業	385	380	-1.5%

トピックス

■仙台支店 売上の一部を東日本大震災復興支援活動に寄付

震災発生から5年が経ち、仙台支店ではお客様感謝会を実施し、3月12日から6月30日までのシステムインテグレーション事業の売上金額の1%を寄付することを決定しました。

お客様の賛同もあり、計画を大幅に上回ることができ、宮城県共同募金会・あしなが育英会東北事務所にそれぞれ5,230,000円ずつ合計10,460,000円を寄付しました。

寄付金は震災孤児・遺児の支援に使われます。



■熊本地震の支援

4月に発生した熊本地震に対し、通信販売事業「たのめーる」でお買い上げ金額に応じて差し上げているハッピーポイントを利用した募金を4月23日から5月31日まで募集しました。合計で840,600ポイントの申込みをいただきました。1ポイント＝1円と換算し、これと同額を大塚商会在が上乘せした合計1,681,200円を日本赤十字社「平成28年熊本地震災害義援金」に寄付しました。

社員と会社のマッチングギフト「大塚商会ハートフル基金」からは熊本県に対し、1,000,000円を寄付しました。

その他、保守契約をご契約いただいているお客様に、被災機に対して代替機の無償貸し出しや無償対応を実施しました。

大塚商会IRサイトのご案内

当社グループの開示資料、財務情報、株式情報などをご覧いただけます。

大塚商会ホームページ IR情報

※掲載内容は2016年8月22日現在のものであり、変更となる場合があります。

- 主な内容：
- IRニュース(適時開示情報等)
 - IRカレンダー
 - IRライブラリ(決算短信、決算説明資料、決算説明会動画配信、有価証券報告書、アニュアルレポート、大塚商会だより等)
 - 財務情報(連結財務ハイライト、各種経営指標)
 - 株式関連情報(株主構成、株式手続き、株主総会招集通知、株主総会決議通知等)
 - 株価情報

The screenshot displays the Otsuka Shokai IR website. The main content area is titled "IR情報" (IR Information) and includes a sub-header "IRニュースや財務情報、株式関連情報など、株主・投資家の皆様に向けた情報を掲載しています。" (We provide information such as IR news, financial information, and stock-related information for our shareholders and investors.) Below this, there are two buttons: "株主・投資家の皆様へ" (For shareholders and investors) and "情報開示の基本方針" (Basic Policy on Information Disclosure). A prominent section titled "今後の決算発表予定" (Upcoming Earnings Release Schedule) features a calendar icon and the text "2016年10月下旬 2016年12月期 第3期中決算発表" (2016 Earnings Release Schedule: 2016 Fiscal Year, 3rd Quarter). Below this, the "IRニュース" (IR News) section lists several news items with dates and titles, such as "平成28年(2016年)12月期 第3期中決算報告書" (2016 Fiscal Year, 3rd Quarter Earnings Report) and "平成28年(2016年)12月期 第3期中決算報告書の動画版配信開始" (Start of video distribution of 2016 Fiscal Year, 3rd Quarter Earnings Report).

<http://www.otsuka-shokai.co.jp/ir/>

連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	前第2四半期連結会計期間末 (2015年6月30日)	当第2四半期連結会計期間末 (2016年6月30日)
		金額	金額
(資産の部)			
流動資産		260,735	280,759
現金及び預金		105,089	122,469
受取手形及び売掛金		105,780	111,665
その他		49,865	46,623
固定資産		68,510	69,036
有形固定資産		41,870	40,398
無形固定資産		9,370	10,595
投資その他の資産		17,269	18,043
資産合計		329,245	349,795

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

科目	期別	前第2四半期連結会計期間末 (2015年6月30日)	当第2四半期連結会計期間末 (2016年6月30日)
		金額	金額
(負債の部)			
流動負債		152,800	155,767
支払手形及び買掛金		75,344	79,120
電子記録債務		18,727	19,160
短期借入金		6,850	5,000
その他		51,878	52,487
固定負債		11,467	13,787
長期借入金		—	1,700
退職給付に係る負債		8,098	8,990
その他		3,368	3,097
負債合計		164,267	169,555
(純資産の部)			
株主資本		171,826	187,361
資本金		10,374	10,374
資本剰余金		16,254	16,254
利益剰余金		145,332	160,868
自己株式		△136	△137
その他の包括利益累計額		△7,969	△8,307
その他有価証券評価差額金		3,701	4,249
繰延ヘッジ損益		—	△44
土地再評価差額金		△14,056	△14,049
為替換算調整勘定		87	△72
退職給付に係る調整累計額		2,297	1,608
非支配株主持分		1,121	1,186
純資産合計		164,978	180,240
負債純資産合計		329,245	349,795

資産の状況

流動資産が前年同期末に比べ200億24百万円増加し、2,807億59百万円となりました。固定資産は5億25百万円増加し、690億36百万円となりました。総資産は205億49百万円増加し、3,497億95百万円となりました。

自己資本比率

自己資本比率は前年同期末に比べ1.4ポイント向上し、51.2%となりました。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	前第2四半期連結累計期間 (自2015年1月1日 至2015年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2016年1月1日 至2016年6月30日)
		金額	金額
売上高		317,933	338,509
売上原価		246,542	264,590
売上総利益		71,390	73,919
販売費及び一般管理費		48,216	49,974
営業利益		23,173	23,944
営業外収益		551	655
営業外費用		27	32
経常利益		23,697	24,568
特別利益		3	—
特別損失		19	267
税金等調整前四半期純利益		23,681	24,300
法人税等		8,908	8,262
四半期純利益		14,772	16,038
非支配株主に帰属する四半期純利益		122	78
親会社株主に帰属する四半期純利益		14,649	15,959

売上高の状況

売上高は前年同期に比べ205億76百万円増加しました。

営業利益の状況

営業利益は前年同期に比べ7億71百万円増加しました。

純利益の状況

営業利益の増加などにより、親会社株主に帰属する純利益は前年同期に比べ13億10百万円増加しました。

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	前第2四半期連結累計期間 (自2015年1月1日 至2015年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2016年1月1日 至2016年6月30日)
		金額	金額
四半期純利益		14,772	16,038
その他の包括利益		573	△665
四半期包括利益		15,346	15,372
(内訳)			
親会社株主に係る四半期包括利益		15,223	15,304
非支配株主に係る四半期包括利益		122	68

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	前第2四半期連結累計期間 (自2015年1月1日 至2015年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2016年1月1日 至2016年6月30日)
		金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー		28,649	28,000
投資活動によるキャッシュ・フロー		△4,018	△3,346
財務活動によるキャッシュ・フロー		△8,588	△9,533
現金及び現金同等物の増加額		16,042	15,120
現金及び現金同等物の期首残高		97,943	109,587
現金及び現金同等物の四半期末残高		113,986	124,708

キャッシュ・フローの状況

営業活動から得られた資金は、「仕入債務の増加額」が小さくなったことなどにより、前年同期に比べ6億48百万円減少し、280億円となりました。

投資活動に使用した資金は、「ソフトウェアの取得による支出」が減少したことなどにより、前年同期に比べ6億71百万円減少し、33億46百万円となりました。

財務活動に使用した資金は、「配当金の支払額」が増加したことなどにより、前年同期に比べ9億45百万円増加し、95億33百万円となりました。

会社の概要・役員

会社の概要(2016年6月30日現在)

商号：株式会社大塚商会
 創業：1961年7月17日(設立：1961年12月13日)
 資本金：10,374,851,000円
 従業員：7,089名(連結子会社を含めた従業員数：8,660名)
 事業内容：システムインテグレーション事業
 コンピューター、複写機、通信機器、ソフトウェアの販売
 及び受託ソフトの開発等
 サービス&サポート事業
 サプライ供給、保守、教育支援等
 主要取引銀行：株式会社横浜銀行
 株式会社三菱東京UFJ銀行
 株式会社みずほ銀行

主要事業拠点及び連結子会社(2016年6月30日現在)

本社 〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4
 TEL.03-3264-7111(代表)
 関西支社 〒553-8558 大阪府大阪市福島区福島6-14-1
 TEL.06-6456-2711(代表)
 地域営業部 中央第一営業部 中央第二営業部 神奈川営業部
 城西営業部 多摩営業部 城北営業部 北関東営業部
 京葉営業部 大阪北営業部 大阪南営業部
 支店 札幌支店 仙台支店 宇都宮支店 中部支店
 京都支店 神戸支店 広島支店 九州支店
 連結子会社 (株)OSK／(株)ネットワーク／
 (株)アルファテクノ／(株)アルファネット／
 大塚オートサービス(株)

役員(2016年6月30日現在)

代表取締役社長	大塚裕司
取締役兼専務執行役員	片倉一幸
取締役兼専務執行役員	高橋俊泰
取締役兼上席常務執行役員	塩川公克
取締役兼常務執行役員	矢野尚
取締役兼常務執行役員	齋藤廣伸
取締役兼常務執行役員	若松康博
取締役兼常務執行役員	鶴見裕信
取締役兼上席執行役員	広瀬光哉
取締役兼上席執行役員	田中修
取締役兼上席執行役員	森谷紀彦
取締役	牧野哲郎
取締役	藤田哲男
常勤監査役	齋袋直人
監査役	仲井一彦
監査役	若槻哲太
監査役	羽田悦朗
相談役	大塚実
常務執行役員	山藤幸司
常務執行役員	野山卓悦
上席執行役員	奥山和亮
上席執行役員	水谷介彦
上席執行役員	後藤俊雄
上席執行役員	大西綱績
上席執行役員	関口淳一
上席執行役員	植野弘秀
上席執行役員	三浦秀周
上席執行役員	松本英夫
上席執行役員	長坂康夫
上席執行役員	尼村聖
執行役員	瀬野憲秀
執行役員	清藤健
執行役員	伊藤憲
執行役員	猪岡義昭
執行役員	高松英則

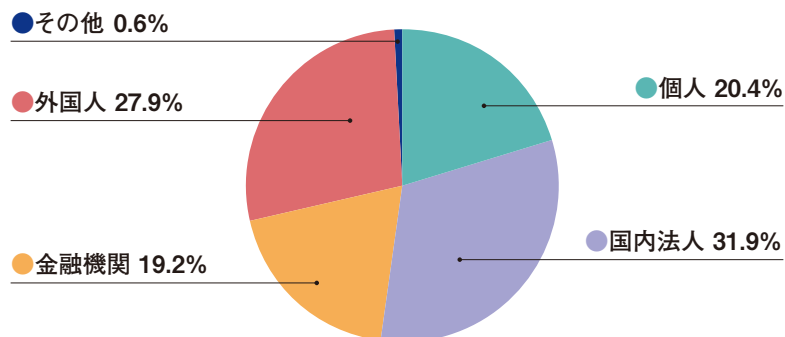
株式の状況 (2016年6月30日現在)

発行可能株式総数	338,580,000株
発行済株式の総数	95,001,060株
単元株式数	100株
株主数	5,072名

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況		当社の当該株主への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)	持株数(株)	持株比率(%)
大塚装備株式会社	29,364,990	30.91	—	—
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,510,000	4.74	—	—
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,095,500	3.25	—	—
大塚商会社員持株会	2,898,260	3.05	—	—
大塚 裕司	2,840,940	2.99	—	—
大塚 厚志	2,837,850	2.98	—	—
大塚 実	2,836,470	2.98	—	—
大塚 照恵	1,936,500	2.03	—	—
ザ バンク オブ ニューヨーク ノントリーティー ジャスデック アカウント	1,156,804	1.21	—	—
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,061,500	1.11	—	—

所有者別株式分布状況(株式数ベース)



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日
定時株主総会	毎年3月
基準日 配当金受領株主確定日 株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	毎年12月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日 毎年12月31日及び中間配当金の支払いを行うときは6月30日 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル:0120-782-031
公告掲載	大塚商会ホームページに掲載 https://www.otsuka-shokai.co.jp/corporate/ir/stocks/public_notice/index.html

- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。



〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4 TEL. 03-3264-7111
<http://www.otsuka-shokai.co.jp>

